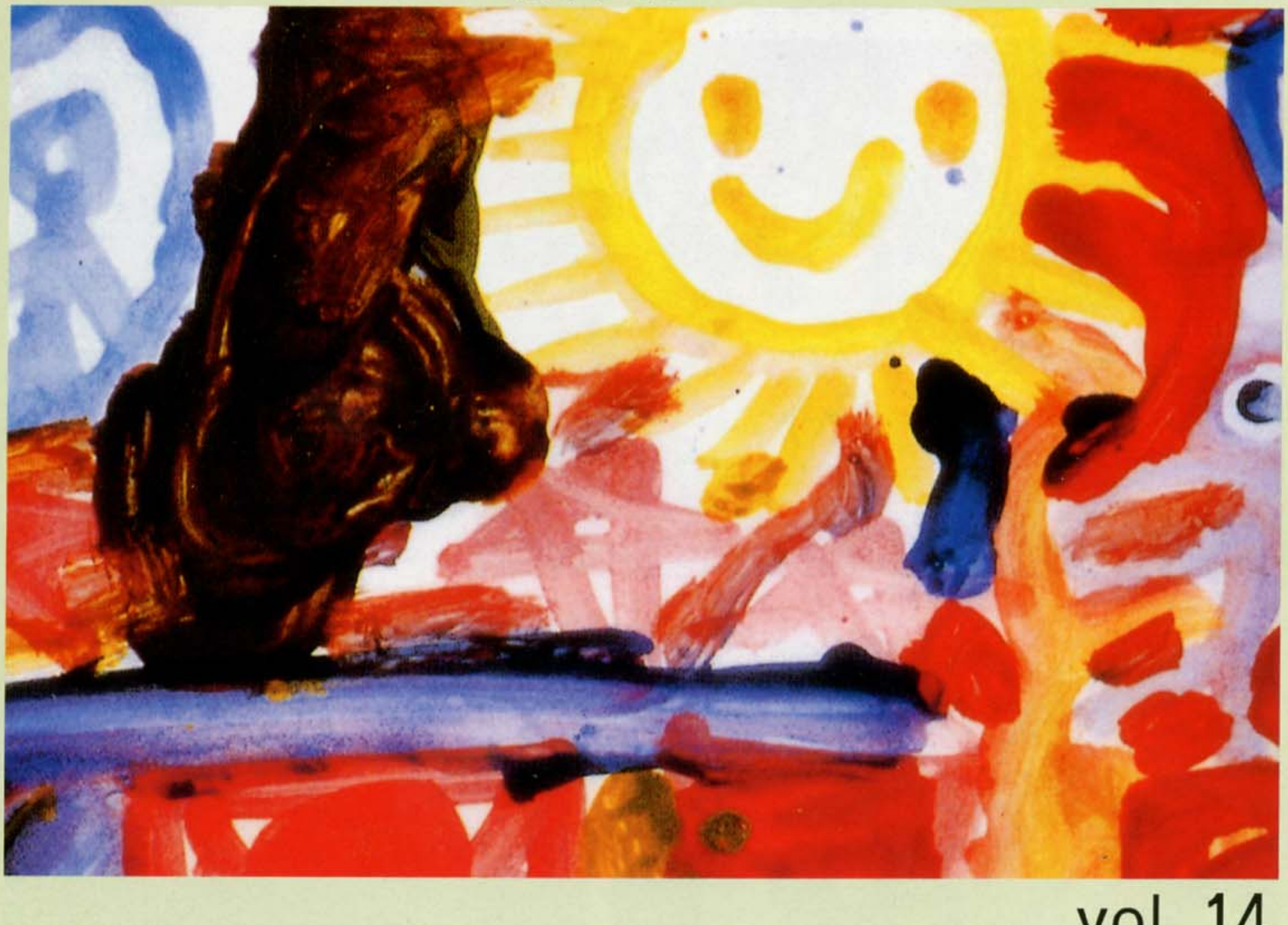
国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

◎特 集　国際青年育成交流事業（青年海外派遣）
●講 演　国際日本文化研究センター 河合隼雄 所長

マクロコズム '97. 1



vol. 14

㈶青少年国際交流推進センター

国際青年育成交流事業（青年海外派遣）

皇太子同妃両殿下の御成婚を記念して平成６年度より始められた「国際青年育成交流」事業は、日本青年を世界各国に派遣する「青年海外派遣」と諸外国の青年を日本に招へいする「外国青年招へい」の二つの事業より構成されており、ともに現地の人々との共同体験交流活動を基本に置いています。平成８年度は、ブラジル、ドミニカ共和国、ドイツ、インドネシア、ジョルダン、ネパール、アメリカ合衆国、ジンバブエの８か国への青年海外派遣が、９月３日から９月25日の期間で行われました。

◀インドネシア
小学校で子供たちに囲まれて

プログラムは、表敬、施設見学、ホームステイ、ボランティア活動など、多岐に渡りますが、今回は訪問国の子供たちとホームステイに注目してみました。

～未来を信じて～

◀ジンバブエ
小学校の教室で授業に参加。「日本のことを教えてね」

◀ドイツ

小学校で日本紹介をする
「漢字っておもしろいでしょ？」

▲インドネシア

ＳＫＢ（エスカベ）チビノンの教室で子供たちと懇談。ここは、義務教育を受けられなかった子供たちが改めて学ぶための施設

▲ドミニカ

福祉慈善団体にて子供たちと交流

ジョルダン

▼パレスチナ難民キャンプ内の養護施設を訪問

◀アメリカ

共に夕食の準備をして食卓を囲む

ホームステイ三題

～何気ないふれあいが、最高のもてなし～

▲ドイツ

お父さんにお箸の使い方を教えました

▲ジョルダン

漢字とアラビア文字を教えあって名前を書いてみました
"We have Japanese Name!"

◀ネパール

村での歓迎式で村長さんより記念品を受ける

インドネシア人との交流を通じて感じたこと

平成8年度国際青年育成交流事業
インドネシア派遣団員
鈴 木 健 夫

私たちインドネシア派遣団は、約三週間にわたってインドネシアで交流活動を行ってきました。この派遣の目的の一つは現地の人達との相互理解だったのですが、やはり思い出に残ったのは、チビノンという村でのホームステイなどを中心に、多くのインドネシア人と交流できたことだと思います。

全ての団員にとってインドネシアでの生活は初めてでしたが、風呂やトイレなどの生活様式の違いや、異なった食生活で体調を崩す人が続出しました。そんな中で、楽しい生活を送れたのは、現地の人達の思いやりのおかげです。実は私もホームステイ先で腹をこわしました。小さな村ですので、その話はあっという間に村全体に伝わり、腹痛が治った後も、すれちがう村人から「大丈夫か」と声をかけてもらい、本当に感激したのを覚えています。その時、私のホストファミリーは何度も牛乳を持ってきてくれました。後で知ったのですが、その貧しい村では、牛乳はめったに口にできない、大変高価な飲み物だったそうです。

また、メンバーの一人が日本から家族の写真を持って行ったのですが、ホストファーザーはその写真を宝物のように額縁の中に入れ、部屋に飾っていたそうです。これらのエピソードを含め、村の生活のなかでは私たちにとって微笑ましい思い出がたくさんできました。やはり、そこでは日本より強い「人と人との結びつき」があったような気がします。

インドネシアの人達は、私たち日本人が思っている以上に日本に興味を抱いているということにも気付きました。実際、ドラえもんなど日本のテレビ番組が放送されていますし、私たちに対しても「おまえの月収はいくらだ？」などと、好奇心をもって尋ねてくることもしばしばでした。その反面、日本人に対して不信感を抱く人が多いのも

主 な 内 容

国際青年育成交流事業 …………………… 5〜7
モンゴルからの手紙 ………………………… 8
「国際青年交流会議」基調講演 ……… 9〜13
人間関係の文化差
国際日本文化研究センター所長　河合隼雄
日本と韓国の相互理解と
友好増進のための交流 ……… 14〜15
日韓青少年指導者交流事業 ………… 16〜17
新春特別企画
「澤山元船長に聞く」 ………………… 18〜19

〈表紙の説明〉
フィリピン
ストリート・チルドレン
の作品で、作者名不明
アジアのこども絵画展より
優秀賞受賞作品

事実だと思います。ホストファミリーからもらった手紙も「日本人は残酷な民族だというイメージを持っていたが、あなた達が親切な人達なので安心した」と本当に書いてあってびっくりしました。誰しもよくわからない相手に対しては不安感を抱くものです。もし、このような日本人に対する誤った（？）悪いイメージを持った人がたくさんいるなら、それを少しでも良くしていく努力をしなければなりません。そのためにも私たちはこれからも積極的に交流活動を続け、日本についてもっと良く知ってもらうべきだと思うようになりました。

日本に忍びよる食糧難？

平成8年度国際青年育成交流事業
アメリカ合衆国派遣団員
山崎和典

▲ フロリダ州デルレイ
ホストマザーのジョニーさんと

今回、総務庁青少年対策本部の派遣事業でアメリカへ行ったのが、僕にとっては初めての海外体験だった。多くの体験をしたが、なかでも、今まで考えもしなかった視点をもつことができた。その中から最も印象深かったことを書いてみたい。

食糧難。この言葉を聞いて、ピンと来る人はどれだけいるだろうか。

現在、日本は経済大国として君臨しており、金があれば何でも買うことができる。この、金さえあればどうにかなるという考えがあたかも不変の真理であるようにさえ感じられる。私は大学で獣医学を学んでいる関係上、食品、特に畜産物の現状を聞く機会が多い。

今回アメリカに1か月滞在してみて食料という点から日本を照らし合わせてみると、20年後の日本はかなり深刻であろうと感じた。

現在の日本の畜産物の需要は、国民1人当たり1日1食は必ず含まれているというほど高いものである。しかし、それに反して日本の畜産農家は年々減少の一途をたどっている。その原因の一つとしては、ウルグアイラウンドによる肉の自由化が考えられる。国土の狭い日本でつくられた畜産物は、これまで高価でも品質が高いという点で外国からの肉に勝ってきたが、今や、肉の輸入自由化により日本よりもともと安かった外国の肉が更に安くなり、もはや勝負にならないのである。そ

の結果として日本国内の畜産農家は太刀打ちできず、経営困難に陥っている状態が増加しつつあり、自給力の低下は著しい。現時点においては、外国からの肉を中心にしていても問題はさしてないだろうが、20年後はどのような展開になっているだろうか。

発展途上国の人口増加問題は解決の兆しを見せず、2020年には世界の人口が倍加してしまうと言われている。日本の本当の食糧難は、その時に間違いなくやってくるのではないか。当然、世界人口の倍加により食糧もその分必要になる。はたしてその時、日本に輸出できるほどの畜産物をアメリカ、オーストラリアが保有しているだろうか。国内の畜産物の消費量のほとんどを外国に頼り、現在も畜産農家が減少している日本が、2020年までに自国内で賄う状態にすることなど不可能に等しい。加えて、オゾン層破壊の結果、直接当たる紫外線により植物の育成が不十分になることも予想されている。どうやら、これから20年間に人類がこれまでに経験したこともない大きな問題が立て続けに起きてきそうである。私はアメリカに行くまで、食糧問題が深刻だと授業で聞きながらもどこか他人事のように思ってきた。しかし、どこにでもあるようなアメリカのスーパーマーケットに入り、肉の値段が日本の半額以下なのに驚いたりしながらも、これから日本のスーパーマーケットで外国産の肉の値段が徐々に上がり始めたら、それは要注意のサインなのかもしれないなどとも思った。

こんな世紀末的なことをいうと奇妙に思われる方もいるであろうが、私たち若者こそ現実を見つめ自分たちの未来を明るいものにしていく努力が必要なのではないかと考える。そのためには、世界で展開しているどのような事でも無関係ということはあり得ないと感じたのである。

◀ ペンキ塗りのボランティア
活動を終えて
フロリダ州デルレイにて

外国青年招へい事業のモンゴルの参加青年からの手紙に自分の子供さんの手紙が同封されてきましたので紹介します。日本語を勉強している13歳の女の子からですが、原文のまま掲載します。

モンゴルからの手紙

◀ エ・ムルンちゃんが日本に滞在しているときに、日本の子どもたちと遊んでいるところ

こんにちは。

うちのおとうさんのおなまえはチ・エンフバトといいます。このてがみをかいてくださいとおとうさんがわたしにいいました。私のおなまえはエ・ムルンです。13さいでちゅうがく1年せいです。がっこうで日本語をならっているせいとうです。2年せいからにほんごのべんきょうしています。だから日本のことをいっぱいしりたいです。95年の2月にべんきょうするために日本のひょうごけんひかみちょうひがししょうがっこうに3か月べんきょうしました。日本から3かいうちのおともだちがモンゴルにきてくれました。それとも95年にうちのおとうさんがときょうへいってきました。うちのおとうさんはYouth Departmentにしごとっています。私は日本のNHKとWindow on Japan Pacific Friendをいつもみています。私はかんじがあんまりしりません。えいごもしりません。だけどうPacific Friendがえいごの本だからよんではできませんです。もしこの本が日本語であるんだったらうちのクラスの34人が本をよんで日本のことがもっとたくさんしってるようにならとおもいます。日本はとてもきれいなところでした。Pacific Friendのおにいさんとおねえさんありがとうございます。これからもよろしくおねがいします。日本はとてもいいくにだしまだまだいきたいです。(これは私のしゃしんです。日本にいるとき)(きょうと95・4・1)

さようなら

エンフバト　ムルンより

Uloanbaator-13
Mongolia
Centralpost P.O.B-730
to Enhbat Murun

人間関係の文化差（II）

国際日本文化研究センター所長
京都大学名誉教授
河 合 隼 雄

人間関係の在り方

そういうことを考える上で非常に割り切った、簡単な分類で申し訳ありませんが、人間関係の在り方を二つのパターンに分けてみたいと思います。片方をA、片方をBと仮に名前を付けておきます。A型の方では、物事を分ける、あるいは切るということが非常に大事になります。物事を考えるとき、例えば全体のなかで右と左に分けるとか、あるいは男性と女性を分けるとかですね。それをどんどん分けていきますと、とうとう分けることのできない存在、それが individual、まさに分けられないということですが、分けられない個人というものが最後に残ります。だから、A型の方は、個人ということが非常に大事な考えの出発点になります。

B型の方は、そういうふうに分けるのではなくて、全体を包みこんでしまうという考え方です。一番初めにあげました、ニューヨークで日本人とアメリカ人との間に起こった葛藤、これをA型とB型で言いますと、アメリカの方はA型の考え方ですから、個人個人は違うと、個人個人を分けている。ある個人はよく働いたので沢山お金を貰う。ある個人は働いていないのであまりお金を貰わない。個人を発想の原点にした考え方です。ところが、日本人は包み込むほうです。3人一緒に入ったのだから、3人包んで一緒にして、1年経ったら3人一緒に上げる。よく出来る人とよく出来ない人と分けない。分けないで、全体を上げる、というのがB型の発想なのです。

私はどちらが正しいとか、どちらが良いとか言う気持ちはありません。よくよく考えてみると、A型もB型も一長一短だと思っております。この分類の考え方をもう少し続けてみますと、A型の方はまず個人があって、互いに切れていますから、個人と個人の間で、言語によって繋がるということが非常に大事です。約束をして、それを守るとか、自分はどんな人間であると表現するとか。だから、この世界では契約ということが非常に大事になります。ところが、B型の方は、初めからまとまりがありますから、言葉で言うのではなくて、皆が感じている一体感という感情が非常に大事になります。夫婦でも、A型では、二人は「愛している」ということを言葉で表現しなくてはならない。ところが、B型の夫婦は一体感でまとまっていますので、何も言わなくてよろしい。私の両親なんかは、ほとんど互いに話をしていなかったのではないかと思うのですが、それでも結構仲良くやっていました。それは非言語的にお互いが分かり合う、繋がるということが非常に良くできたからだと思います。A型の方は言葉で契約して言葉

でうまくやっていく。その時に善悪の判断というのが非常に大事になってきます。これが善でこれが悪だ。悪をする者は遠ざけ、善の者が集まって、これはよろしい、ということになります。ところが、全体にまとまっているほうは、善も悪もなくって、全部一緒であれば良いわけですから、この中に入っているか、外にいるかということがすごく大事になってきます。まとまっている者はいわば皆善で、善悪の判断というのはあまり言わない。中では皆仲良くする。その代わりに、外にいる人に対しては、これは外だということで、はっきり区別をする。内か外かということが非常に大事になってきます。

善悪について

善悪の判断ということについて、一つのおもしろい話があるので紹介したいと思います。皆さんご存じのようにキリスト教では善悪の判断というのは非常にはっきりしています。神が善であると判断するのか悪と判断するのか非常にはっきりしています。人類の始めのアダムとイブ。初めにイブが神の禁止を破りましたので、神はすごく怒って、そこに原罪というものが生じてきます。原罪というものはキリスト教にとっては非常に大事なものです。そのキリスト教が日本に16世紀に入ってきました。しかし、すぐに、徳川時代になってキリスト教は完全に禁止されます。しかし、隠れキリシタンといわれる人達が九州の長崎の近くの島に250年の間ずっと残っておりました。彼らは、もうずっと前に一番初めにキリスト教の神父様から聞いたバイブルの話を皆覚えていて、口伝えでずっと子孫に伝えてきました。そして、キリスト教が許されるようになって、この隠れキリシタンの人が前に聞いたバイブルの話を書いて残していたのです。それは「天地始まりのこと」と名付けられています。その「天地始まりのこと」を私は読んでみてびっくりしました。バイブルの話が250年経つうちにだんだん日本的になっているのです。その中で一番すごいところはどういうところかと言いますと、イブが禁止されていた木の実を食べて、アダムも食べて、そこへ神様が来られまして、「お前たちはけしからん。この天国から出ていくように」と言われます。ここはバイブルと同じです。アダムとイブは「申し訳ないことをしました。我々いつか必ず天国に帰ってくるようにお許しください。」というふうに頼みます。すると、神は「よかろう。400年経ったら帰ってきてもよろしい。」と。原罪というものがそこでなくなってしまいます。これは本当にすごいことですね。誰がどこで変えたかということはわかりません。しかし、250年経つ間にどこかで変わっていったのです。原罪というものがなくなったのにどうしてキリストは死ぬことになるのか、という説明が非常に難しくなりますね。しかし、それもちゃんと説明がつくように話が作り変えてあります。関心のある方はこの「天地始まりのこと」を日本におられる間にどこかで見つけて読んでください。非常におもしろいです。私が今申し上げたかったことはどういうことかというと、善か悪かというよりも、「そこまで言うのだったら許してやろう」、「お前は悪いことをした」というのはなくなって、「一緒じゃないか。いつか天国へ帰って来い。」というふうな考え方があるということです。

チャンネルの切り換え

話を元に戻したいと思います。A型とB型とありまして、A型の方はさっき言いましたようにindividual、個人ということが非常に大事ですから、自分のやりたいことをする、やり遂げる、あるいは自分の能力をできる限り伸ばす、ということが非常に大切になります。ところが、B型の方でしたら、全体としてやっておりますので、全体の中で誰か一人がこうやりたいとか、こうしたいと思っても、常に全体のことを考えなければならない。全体のことを考えた後で自分のことを考える。もちろんA型の方も自分はこうしたいとか思っていても、結局は他の人のことも考えて結論を出すのですが、発想の始まりにindividualということがあるということです。B型の方は、全体のことを考えているといっても、自分のことを忘れているわけではありませんから、全体のことを考えながらもだんだん自分の意欲を出してくる。結論は似てくるかもしれませんが、発想の始まりが違うということです。日本人の場合は、伝統的にはB型の方が非常に強かったと言っていいと思います。この頃は、欧米の影響が強いものですから、AとBが混ざっているだろうと思います。自分は日本人だけど、相当A型でやっている、と思っておられる方でもよくよく調べてみるとちゃんとB型のところが残っているということに気が付かれると思います。これは、人間というのは面白いもので相当変わったように思ってもなかなか変われません。例えばA型のパターンを身に付けている人で、日本へ来て、日本が好きになって、やっぱりB型の方が良い。何ともいえない一体感が良いから、だんだんB型になったと思っている方でも、いざとなったらパッとA型に返るということが起こりますし、日本人の人で、アメリカにもう4年も5年もいたのでほとんどA型だ、と思っている人もいざとなるとフッとB型になる時があると思います。私はどうしているかと言いますと、私はA型もB型もどっちも好きですから、どちらもある程度持っていて、この人と付き合うときはどうもA型の方が良いらしいとか、こっちに行くとB型が良いらしいとか、その辺をいろいろ考えながらやっています。私は頭の中にAチャンネルとBチャンネルがありまして、飛行機に乗ってハワイを過ぎたころにチャンネルAに切り換える、帰って来る頃にBに切り換える、そういうことをやっているのではないかと思います。ただ、私が体験しましたのは、アメリカへ行けば相当アメリカ人の人に合わせて一生懸命やっているように思いますけれども、非常に困ったことが起きたり、緊急事態になったりすると、自分で意識せずにパッとB型に返っている時があるのに気がつきます。

アメリカへ行くと、アメリカ人の人に直ぐに「お前の意見は何か」とオピニオンを聞かれますね。日本人はなかなかパッと自分の意見なんか言わない。なるべく「まあ、あまりわかりませんが」とかそういうことを言いながら、だんだんやっていくのですが、私は、私の意見をパッというようにしています。ところが、ちょっと困ったときになりますと、やっぱり頑張るのを止めて、直ぐにI don't knowと言いたくなってきます。自分で、またやってしまった、チャンネルがパッと切り換わったなと思います。

B型でもう少し付け加えたいことがあります。

さっき、何らかのまとまりがある、このまとまりに包まれて一体感というものをベースにして生きている、ということを言いました。その場合、日本人と例えば韓国の方を比べますと差が出てきます。どう差が出てくるかと言いますと、我々日本人は、まとまりの単位が自分の置かれている場と言った方がいいでしょう。私が例えば京都大学という所に勤めると、京都大学全体のまとまりの中で私は行動しようと思います。あるいはもっと単純な場合、ここへ来ますと皆さんのこの場の中の一人として行動しようとします。韓国の方の場合は、このまとまりの単位は血縁です。血のつながりが非常に大切です。韓国の方は自分がどういうファミリーに属しているかということをすごく大切にしております。そのファミリーの中ではすごい一体感があるのです。そして、そこから外へ出ていくと、外の人とはつながりがありませんから、いろいろ話をしたり、対等にやり合ったりする。これは日本人が韓国に行って非常に誤解をするところです。というのは、韓国の方が二人で口論などを始められますと、ものすごい迫力でワァーと口論されるのですね。我々ももちろん口論しますが、韓国の人ほどはしない。腹のなかですごく怒っていても、ある程度その場を大事にしますので、あまりやらない。韓国の人がワァーと口論されているので、この二人は仲が悪いのかというとそれほど仲が悪くもないのです。日本人の場合は、あんな喧嘩をすれば本当の敵になってしまう。

だから、先程の私の分類で行きますと、こういうことを言った人がいます。日本人はB型だが、韓国の人はA型なのだと。どんどん自分のことを言われるのです。ところが良く見てますと、韓国の方はファミリーの中に入ると全然自己主張ということをされません。私は韓国の友人もいるので

広島県青年国際交流機構

世界の子どもの絵画展

「第8回世界青年の船」参加青年
福垣内直美

「世界の子どもの絵画展」は、広島県青年国際交流機構主催により「第8回世界青年の船」広島県参加青年の4名が中心となって、1996年10月22日から11月1日に広島信用金庫の鷹野橋支店で開催されました。

ここで、展示した絵は、「第8回世界青年の船」の自主活動の一環として、広島県参加青年の母校である小、中学校から集めた「日本の子供たちの絵」と交換するために、バングラデシュ、スリランカ、カタール、イエメン、エジプト、ノルウェー、ベルギー、ポーランド、タンザニア、南アフリカの10か国のナショナル・リーダーに依頼して集めてもらった内の30点です。

展示されている絵の表現方法、色彩はもとより、使っている紙や絵と共に表示してある各国の子供の写真からもそれぞれの「国らしさ」がうかがわれ、「日本の子供が描いていた絵とはまた趣が違って、各国それぞれの個性があって面白かった。」

良く付き合うのですが、他の人とワァーと言い合いしている人でも、そして非常に自由にしておられる人でも、私がそこの家に招かれて行き、例えばその人のお父さんがおられたら、もうお酒もビールも飲まない。何故かというと、お父さんがおられるから。我々と一緒だったらガブガブとビールも飲んでいるのですが。お父さんがおられるというだけで、もう我々とワァーと言い合いしているときの面影が全然ない。これはすごく違うと思います。

こういう家族の一体感をベースにしていろいろなことをするというのは、おそらく中国もそうだったと思います。ただ、最近中国に行きまして、中国の人と相当突っ込んだ話をしましたら、中国の人は「今まではそうだった。しかし今はちょっと違う。」と言っていました。これは、皆さんご存じの文化大革命の時に、家族同士でも自分の家族を裏切って政府に密告したり、そういうことが起こった。そのため、中国人がすごく大事にしてきた家族の一体感というものが壊れてしまった。これから中国の人がどんなふうに生きていくのか、私はすごく関心を持っています。何故かと言いますと、今私が言っているのは単に日常生活で私とあなた達がどんなふうに関係するか、どんなふうにものを言うかということだけではなくて、我々の生きていることの非常に根本的なことに繋がっていると考えているからです。というのは、我々人間は確かにいろいろ好きなことをしたり生きているわけですけど、どうせ我々皆死んでしまいますので、自分が今生きているということを自分が死ぬということと関係付けて、一体自分は何の為に生きているのか、あるいは自分が生きていることの意味というのはどういうことなのかということをある程度考えざるをえません。　（つづく）

という見にきてくれた方の感想もありました。

信用金庫という客の出入りが多い場所を展示会場にしたので、後ほど、銀行の方が「お客様の多くが待ち時間中、熱心に見ていました。」と言っておられました。私たちにとって、多くの人々に絵を見てもらい、私たちが体験してきた「世界」をより身近に感じ取ってもらえたら幸いです。

この展示会は、「第6回世界青年の船」から、毎年広島参加青年の自主活動として行われており、今年で3回目となります。次回の「第9回世界青年の船」にも同じ企画を行う予定で、現在、事前準備に取り組んでいます。来年も素晴らしい絵画展が開催されることを願っています。

日本と韓国の相互理解と友好増進のための交流

歴史的にも文化的にも関係の深い日本と韓国が友好関係を増進させていくことは、両国のためのみならずアジア太平洋地域の発展のために不可欠です。しかし、両国の関係は、経済面での結びつきは強まりつつあるものの、国民感情の面では、「近くて遠い国」という言葉に表われているように、相互理解と友好親善を増進していくためにより一層の努力が必要な状況にあります。

本事業は、平成7年の日韓国交正常化30周年を踏まえ、同じ問題意識を有する㈳韓国青少年交流振興協会と連携し、21世紀に向け、両国の将来を担う青年たちの相互理解と友好親善の促進を図るために行ったものです。青少年の育成に積極的に取り組んでおり、かつ、日韓親善交流の推進に強い関心を有する韓国青年指導者20名を、7月2日から11日までの10日間にわたり招へいし、東京及び京都、大阪においてセミナー、ホームステイを含むプログラムを実施しました。

事業実施に当たっては、日本財団より補助金をいただくことができたため充実したプログラムを企画することができたことを改めて感謝します。

「日本と韓国の友好増進と相互理解のための交流」受入日程

主 な 内 容

7/2	到着（KE704）／オリエンテーション
7/3	表敬・観光（バスにて全体行動） 都庁見学／総務庁青少年対策本部次長表敬 ＮＨＫ／原宿散策／歓迎夕食会
7/4	視察・観光（バスにて全体で行動） 最高裁判所／国会見学／都内見学 夕食後、公開セミナー打合せ
7/5	課題別視察（テーマ別グループ活動） ①小学校（新宿区立落合第二小学校） ②新聞社（ジャパン・タイムス…英字新聞）
7/6	公開セミナー／交流パーティー
7/7	東京発（ひかり219号）／京都着 バスにて京都観光／公開セミナー打合せ
7/8	大阪府青少年活動財団表敬 公開セミナー／歓迎夕食会／民泊へ
7/9	民泊家族とともに
7/10	民泊から戻る／評価会
7/11	出国（KE723）

▶最高裁判所前にて

▶大阪府青少年活動財団にて

「日本と韓国の相互理解と友好増進のための交流」のボランティアを終えて

嚴　基　福（EOM KEE BOK）
（日韓青年親善交流事業1993年度韓国参加青年）

7月2日成田空港に到着した時の交流団の団員の表情は多少緊張していた。しかし、韓国へ帰る時の表情は名残りを惜しむかのようで、確かに何かを得て帰ったようだった。それを見て、10日間、ボランティアとして活動したことが本当に良かったと思った。

プログラムが始まる前、「自分の役割は何か」について考えたことがあった。交流団が無事に帰るように世話をすることと、行事を主催する側の目標と交流団の目標とするところが一致するよう橋渡しをすることが自分の役割だろうと考えた。

交流団の団員皆が、初めから終りまで誠意を尽くしたスタッフに心から感謝していた。特に、課題別視察での小学校訪問は、学校の方から4時間の見学プログラムを作っていただき、とっても楽しく勉強になるプログラムであった。更に欲を言えば生徒達との話し合いやスポーツをする時間などが、持てればもっと楽しかったと思う。子供の時から隣の国としての認識を深めることが重要だと考えるからである。

今回の交流では、両国の理解を深めるためのセミナーがメインであった。東京と大阪で開催され、個人的には良い結果が出たと評価している。東京では日韓民間交流の在り方のための具体的な方法が提示され、分科会ではお互いの国の理解について時間が足りないくらい熱心な討議が行われた。

大阪ではコーディネーターの研究とパネラーの経験に基づいた日韓の相互理解のための考え方が提案された。特に発表の内容が感動的だったので、皆感じたことが多かったと思う。

ところで、次のプログラムで是非検討してほしいと思うことは、見学・観光・食事について、時間や条件などが許す限り、もう少し日本的なものを勉強する機会があれば良いと思う。例えば、歌舞伎とか博物館のような分かりにくいかもしれないが、伝統的・文化的な場所に行く必要性があるのではないのかと思う。「もっと深い付き合いのためには、もう少し一緒に歌って、踊って、ゲーム等をやる時間もあった方が良かったのではないか」という感想があったので、次に機会があれば通訳とレクリエーションの部分で頑張ってみようと思う。

また、今回のプログラムを一緒に準備しながら素晴らしいと思ったのは、2か月も前から着実に準備されたことと、その主役がボランティアのメンバーであり、彼らの意見がプログラムの大部分として実行されたことであった。

今回、ボランティアとして参加することができて本当に嬉しかった。これまで、1993年の日・韓政府間青少年親善交流団として参加したことがあったが、それとは全く違って何かをやり遂げたという充実感があった。2002年のサッカーのワールドカップ共同開催を機会に、日・韓両国の関係における画期的な発展を期待している。私も、その中で自分なりにできる限りのことをしようと思う。最後に、関係者の皆様に感謝したい。

日韓青少年指導者交流

韓国式のおもてなし！～韓国に学ぶ～

日本青年国際交流機構副会長
酒井　洋幸

〔清州〕 10月11日～13日

今年の青少年指導者交流派遣におけるメインともいえる、ホームステイを含めた交流の地は韓国の中央部やや北寄りに位置する中核都市、清州（チョンジュ）だった。

7月に韓国側から来日したメンバーをはじめ、昨年度来日メンバーなど多くの支部会員の皆さんの手づくりのもてなしや、秋晴れの名勝地探索など最高の対応をしていただいた。以下に、その中心的プログラムを紹介し報告にかえたい。

〈小学校訪問〉

先ず、度肝を抜かれたのが、ソウルから清州に移動し、初めて訪れた小学校参観だった。何と、私たち訪問団のために特別にしつらえた、大きな横断幕が校門に掲げられているではないか！「日本青少年代表団歓迎」には少し参ったが・・（因みに今年の訪問団の平均年齢は40・・歳）

入口では、韓国の民族衣装・チマチョゴリを身にまとった、可愛い小学生たちが、団員一人一人の胸に歓迎のリボンをつけてくれた！

また、授業時間を一部変更し、特別活動時間として、伝統芸能や、工作、スポーツなどといった、私たちが見て、聞いてわかる授業を設定してくださり、団員が参加することが出来るようにとの配慮がされるといった按配。フルートを持って団員が合奏に加わるといった場面もあった。

〈キムチ作り〉

韓国といえば「キムチ」といわれる程、韓国の代名詞にもなっているキムチ作りの機会が清州会員の皆さんの手で実現した。

有名な山岳寺院、俗離山、法往寺を見学して清州に帰ると、交流会場には会員の皆さんが数日前から準備されたという、キムチづくりの材料がずらっと並べられており、壁面には日本語付きで必要材料の説明書きが掲げられている。何と、即席のお料理講座が行われることになった。会員の方の手ほどきを受け、団員一人一人が白菜四分の一のキムチ作りづくりに挑戦。自ら作った、特性キムチはもちろんお土産にどうぞ！とプラスチックの容器まで準備されているという念の入れよう。

荷物の重さが気になりつつも、心温まるお土産に感激また感激。

〈ことば〉

外国での交流で一番のネックは「ことば」。特に韓国ということになると、韓国語を話す日本人も少なければ、日本語を話す韓国人も少ない。勢い「ほほえみ」だけの交流になりがちである。

そういったことへの配慮からか、清州で日本語を学ぶ学生数人が初日の交流から参加してくださり、ことばの上での橋渡しをしていただいた。やはり「ことば」が通じることで、その場、その時々での生活習慣上の疑問や具体的な意見の伝達など利点が多く、早い相互理解につながった。

また、彼らは、清州を発ち、仁川で一泊も共にし最終日空港まで見送ってくれるという親密なお付き合いをしてくれた。

このように三つの事例を挙げた、清州の人たちの「こころ」そして「親密さ」。これを韓国式おもてなしといってしまえばそれまでだが、何だか日本人が今、急激に流れる社会の中で忘れ去ってしまった「大事なこと」を指摘されているような気がした。

日韓青少年指導者交流事業派遣団日程表
平成8年10月8日(火)～14日(月)

月 日	時 間	内　　容
10月8日 (火)	13：30 16：00 18：30 21：45	金浦空港到着 オリンピック記念公園見学 歓迎会 宿舎到着後ミーティング
10月9日 (水)	9：00 10：30 12：00 14：00 16：00 19：30 21：45	宿舎発 文化体育部表敬 景福宮・民族博物館見学 昼　食 国会議事堂 戦争記念館 韓国青少年交流振興協会役員も交 えての夕食会 ミーティング
10月10日 (木)	9：00 10：30 12：00 18：30	宿舎出発 昌徳宮（秘苑） 昼食後自由見学 夕　食
10月11日 (金)	8：00 10：30 13：00 14：00 16：00 19：00	宿舎出発、清州へ向かう 小学校視察 学校関係者とともに昼食 国立忠北大学訪問 国立清州博物館見学 交流会 民泊家庭紹介
10月12日 (土)	9：00 10：30 12：00 13：30 17：00 19：00 20：00	フンドクサ寺見学 俗離山に向かう 昼　食 法往寺参詣 キムチ作り講習 夕食会（清州会員の手作り料理） 民泊家庭へ
10月13日 (日)	9：00 10：00 12：30 16：30 19：30 22：00	民泊家庭より集合 独立記念館見学 昼　食 仁川到着 歓送会 評価会
10月14日 (月)	9：00 11：30 午　後	集　合 お別れ式 帰　国

新春特別企画「この人に聞きました」

海と船と夢と共に…

日本船長協会専務理事
澤山　惠一

Q：「青年の船」の乗船回数は？

A：一等航海士で乗船した「第2回東南アジア青年の船」を皮切りに東ア船は船長として15回・17回・20回。「世界青年の船」は、第4回と6回に乗船しています。何故か「青年の船」に乗船する機会はなかったね。

Q：澤山船長から見た「青年の船」の今昔を教えてください。

A：最初に乗船した「第2回東ア船」の時は、今と違って海外に出ること自体珍しいことだったから、参加青年も「日本代表」という意識をしっかりもっていたと思う。参加青年も管理部も一生懸命だった。戦後、東南アジアの国々とどのようにしてつきあっていくべきかと問題意識も高かったね。

その当時に比べると、今の参加青年には「代表意識」というのは低下しているように思う。若干物見遊山的な気持ちが強いのではないかな。また、特に世界船に関しては、男女比が極端にバランスが悪いのも気になる。女性は元気がいい上に人数が多いから男性陣はどうしても影が薄くなってしまいがちだね。

東ア船と世界船を比較すると、やはり東ア船の方がまとまっているという印象を受けます。もちろん人数が倍以上違うということも影響しているのだろうけど、東ア船のように参集地まで日本青年が船内で準備をして、船に慣れてから外国青年を受け入れ、最後に一緒に日本のプログラムに参加する方が、世界船のように全員がバタバタと乗船して、やっと落ちついてこれからという時に、各港で別れるパターンよりもまとまるような気がする。世界船の別れは何度経験しても美しくも物悲しい。できることなら、せめて別れは1港にしてほしいと思ったものです。

Q：東ア船・世界船で思い出に残っている出来事は？

A：東ア船は何といっても23年の歴史があるわけで、各港で同窓会に集まってくるOB達に再会することは楽しい経験。その後の活躍ぶりなどを耳にすると頼もしい限りです。

また、「第15回東ア船」のフィリピンのナショナル・デイの時に、運悪く時化に見舞われ準備に大変苦労していたのだけど、日本青年達が主体となって彼らを手伝って大成功に終了した。その後の日本のナショナルデイの時には、今度はアセアンの青年達が彼らを手伝い、素晴らしいフィナーレを飾った場面を見た時は感動しました。

「世界船」では、第4回のカイロ、第6回のナイロビで船外泊があったのだけど、青年達が帰船した時、船内に入るや否や口々に「ただいま」「にっぽん丸が恋しかった」「赤いファンネルを見てホッとした」を連発し、それに対して「お帰りなさい」「お疲れさま」と言い交わすクルーとのやりとりはほのぼのしたものを感じて嬉しかった。

また、オマーンでは小旗を掲げた何十隻ものボートによる盛大な歓迎ぶりには感動した。1970年まで鎖国政策をとっていた国とのことだけど、アラブ諸国の中で一番親しみを感じた国だね。

それから、島巡りクルーズをしたのも楽しかった思い出の一つ。僕は、若い人達には世界中のいろいろなものを見ながら交流して欲しいと思ったし、「海からしか見られない世界の地形」というのを見て欲しかったから、地中海では、イタリア半島とシシリ島の間のメッシナ海峡を抜け、噴火山ストロンボリ島を眺めたり、モルジブ諸島付近では美しい珊瑚礁やグリーンフラッシュを見るなど、航海そのものを楽しんでもらいました。

Q：参加青年に期待することは？

A：僕は「夢在千里（ゆめありせんり）」という言葉が好きです。夢を実現するもしないも本人の努力次第なわけで、「千里」はこつこつ努力すれば到達できる距離だし、努力しなければ到達できない距離でもあると思います。常日頃からの努力の積み重ねが小さな夢から大きな夢へつながるのではないかと思っています。人生はしばしば航海に例えられますが、「にっぽん丸」の航海中に遭遇した様々な大波小波を乗り越えたように、皆さんも努力してあらゆる困難に打ち勝って乗り越えて欲しいと思います。

最後にクリストファ・コロンブスが残した素敵な言葉を皆さんにお贈りします。

海は人々に新しい希望をもたらす
眠りが夢を運ぶように

澤山恵一氏のプロフィール

澤山惠一（さわやま けいいち）

1936年4月22日生　B型　京都出身
神戸商船大学卒業後、大阪商船株式会社入社。寄港した国の数は90か国、寄港した港は230港に及ぶが、香港寄港回数77回等を入れると数えきれない。1987年〜1995年まで商船三井客船船長として、「にっぽん丸」「ふじ丸」「新さくら丸」に乗船。1995年8月より社団法人日本船長協会専務理事。

宮崎大会、大盛会!! 来年度も集まろう！

先日、宮崎シーガイアで第12回全国大会が行われました。

少し遠かったからか、参加申し込みの出足が遅く心配しましたが、実行委員会の努力と強い願いが皆さんにも届いたかのように、300人に及ぶ参加者が集い、講演、神楽などを楽しみました。参加事業を超えた仲間の繋がりを築いた方や、久しぶりに仲間との再会を楽しんだ方もいらっしゃいました。次号は、詳細な報告と次回の大会についてお知らせします。

第10回青少年国際理解セミナー

〔平成8年度航空機の派遣事業参加者による報告会〕

日　時：平成9年1月26日（日） 12時30分～17時

会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター　国際棟「第1ミーティングルーム」

会　費：無　料

〈マクロコズム第13号の訂正とお詫び〉

前号で、本文中の記載に校正ミス及び誤りがありましたので、訂正するとともにお詫びします。

P.14	（誤）	柏木市	⟶	（正）	柏市
	（誤）	柏木モラロジー研究所	⟶	（正）	財団法人モラロジー研究所
P.16	（誤）	NGO（政府組織）	⟶	（正）	NGO（非政府組織）

編集後記

アジア太平洋青年招へい、OBSC、全国推進会議と全国大会にマクロコズムの編集、と嵐のように行事が続いた11月。事務所内には「シニソウ！」と冗談とも本気ともつかぬ会話が飛び交いつつも、無事終了。「第9回世界青年の船」の受け入れ、派遣事業報告会に向けて再スタート！

＊本誌の年間講読をご希望の方は、㈶青少年国際交流推進センターまで葉書又はＦＡＸにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム） 1月号 Vol.14 1997年1月1日発行（隔月発行）

編　集：マクロコズム編集委員会

発　行：財団法人　青少年国際交流推進センター

〒103 東京都中央区日本橋人形町2－35－14

TEL 03－3249－0767

FAX 03－3639－2436

e-mail LDP04056 @niftyserve.or.jp

編集協力：総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定　価：195円（本体189円）

印刷所：株式会社　絢文社

TEL 03－3959－3960

日本と韓国の相互理解と友好増進のための交流

本年7月2日から11日の日程で「日本と韓国の相互理解と友好増進のための交流」と題し、韓国より青少年指導者を中心とした20名の招へいを行いました。事業実施に当たっては、日本財団より補助金をいただくことができたため充実した内容にすることができました。

今回のプログラムのハイライトは、東京、大阪ともに開催したセミナーと大阪でのホームステイでした。特に、セミナーに関して、未来を見据えた視点で建設的に取り組むことができ、今後の交流継続に向けて力強いものを感じました。

（本文 P.14、15）

第9回青少年国際理解セミナー（東京）

「21世紀に向けて日韓の相互理解をどう進めるか」
〜韓国が知りたい日本、日本が知りたい韓国〜

▲ 各分科会では、忌憚のない意見が発表され熱心な
▼ 議論が展開されました

（大阪）

▼ 大阪でのセミナーにおける発表者たち

▶ 国会前で全員集合

日本と韓国の未来をつくる

10月8日から14日の7日間の日程で、日本青年国際交流機構和久関東ブロック幹事を団長とした19名で韓国を訪れました。

プログラムは、交流会、ホームステイを含めた多彩な内容で、7月の日本側の歓迎に報いようという熱心さがうかがえるものでした。様々な訪問先の中でも、清州の小学校での歓迎は心に残るものであり、これからの日本と韓国の未来をつくってくれる子供たちへの期待が高まりました。

（本文 P.16、17）

▲ 様々な包装の仕方を熱心に実習する子供たちとにこやかに話しかける和久団長

▶ お箸の使い方も習います
◀ 上手に豆を挟めるかな？

民族楽器の練習も音楽の授業に組み入れられており、
▼ 伝統文化の継承も行われている

コンピュータを使用しての学習はとても進んでおり、
▼ 研修時間も多く取られている